

# ALLEN&HEATH



サーフェイス スタートガイド

S3000, S5000, S7000

① 始める前に最新のdLiveファームウェアと情報を確認して下さい：  
[www.allen-heath.com](http://www.allen-heath.com)

## メーカー保証期間は1年間とします。

Allen & Heath は、材料および製造上の欠陥に対して、オリジナルパッケージ（Allen & Heath 製品）に含まれる Allen & Heath - ブランドのハードウェア製品および付属品を、Allen & Heath のユーザーマニュアル、技術仕様およびその他の Allen & Heath 製品に従って使用された場合、エンドユーザーである購入者（「保証期間」）によって、最初の購入日から 1 年間の期間を定めガイドラインを公表しました。

パッケージ化され Allen & Heath ハードウェアと共に販売された場合でも、この保証は任意 Allen & Heath ブランドのハードウェア製品または任意のソフトウェアには適用されません。

ソフトウェア（以下「EULA」）の使用に関して、あなたの権利の詳細については、ソフトウェアに付随する使用許諾契約書を参照してください。

EULA、保証ポリシーおよびその他の有用な情報の詳細については、ALLEN&HEATH のウェブサイト上で見る您可以通过：  
[www.allen-heath.com/legal](http://www.allen-heath.com/legal)

保証期間の下での修理・交換は、保証期間の延長または更新の権利は提供されません。この保証期間の下での製品の修理または直接交換は、機能的に同等のサービス交換ユニットで行われるかもしれません。

この保証は譲渡することができません。この保証は、購入者の唯一かつ独占的な賠償となり、Allen & Heath もその承認されたサービスセンターのいずれも、いかなる偶発的または間接的損害、またはこの製品のいかなる明示的または黙示的な保証の違反に対する責任を負うものではありません。

### 保証条件

機器は、意図または偶発的な不正使用、不履行、またはユーザーガイドやサービスマニュアルに記載されている内容、または Allen & Heath により承認された内容以外の変更を対象としていません。

任意の必要な調整、変更、修理は、認可された Allen & Heath の販売代理店または代理人によって行われます。

欠陥のあるユニットは、購入証明書で認可された Allen & Heath 代理店またはエージェントに運賃前払いで購入場所に返却されます。出荷前に販売代理店またはエージェントと話し合ってください。返却されるユニットは、輸送の損傷を避けるために、オリジナルのカートンに梱包する必要があります。

免責事項：Allen & Heath はどちらか修理または交換されている製品のいずれかの保存 / 保存されたデータの損失に対する責任を負いません。

追加の保証については、お使いの Allen & Heath 販売代理店またはエージェントにお問い合わせください。さらなる情報が必要な場合は Allen & Heath 社にお問い合わせください

Allen & Heath により承認されない機器の変更や修正は、製品のコンプライアンスとそれを操作するためのユーザーの権限が無効になることがあります。



dLive products comply with the European Electromagnetic Compatibility directive 2004/108/EC and the European Low Voltage directive 2006/95/EC.

Any changes or modifications to the product not approved by Allen & Heath could void the compliance of the product and therefore the user's authority to operate it.

### dLive Surface Getting Started Guide

Copyright © 2015 Allen & Heath. All rights reserved.

# ALLEN & HEATH

Allen & Heath Limited, Kernick Industrial Estate, Penryn, Cornwall, TR10 9LU, UK

<http://www.allenheath.com>



## 重要 - 使用する前に、これらの注意事項をお読みください

### 安全についての案内

開始する前に、機器に付属の用紙に印刷された**重要な安全上の注意**をお読みください。オペレータ、技術者とパフォーマーの身の安全を確保するために、すべての指示に従い、シート上や機器パネルに記載されたすべての警告にお読みください。

### システム動作ファームウェア

dLive Surfaceの機能は、それを実行するファームウェア（オペレーティングソフトウェア）によって決まります。ファームウェアは、新しい機能が追加され改良が加えられたときに定期的に更新されます。

① dLiveファームウェアの最新バージョンは、[www.allen-heath.com](http://www.allen-heath.com)で確認してください。

### ソフトウェア使用許諾契約書

このAllen & Heath製品とソフトウェアを用いて、あなたは関連した**エンドユーザー・ライセンス契約**（EULA）の期間に従うことに同意します。そして、そのコピーは以下で見つけることができます：  
[www.allen-heath.com/legal](http://www.allen-heath.com/legal)

ソフトウェアのインストール、コピー、または使用によりEULAの条件に従うことに同意するものとします。

### さらに詳しい情報

詳細情報、知識ベースおよび技術サポートについては、[Allen & HeathのWebサイト](http://www.allen-heath.com)を参照してください。dLiveセットアップおよびミキシング機能の詳細については、dLiveファームウェアリファレンスガイドを参照してください：[www.allen-heath.com](http://www.allen-heath.com)

① 本スタートガイドの最新バージョンを確認してください。

Allen & Heathデジタルコミュニティに参加して、他のdLiveユーザーと知識や情報を共有することもできます。

### 一般的注意

- 液体やほこりによる損傷から機器を保護してください。フェーダースロットに入るほこりや小さなゴミを避けてください。長期間使用しないときはミキサーにカバーをかけてください。
- 装置が氷点下に保たれる場合は、会場で使用する前に、常温に達する時間をおいてください。推奨動作温度は5~35℃です。
- 極端に暑い場所や直射日光の当たる場所で機器を使用しないでください。ミキサーとラック換気スロットが塞がれないよう、機器の周囲に十分な空気が行きわたることを確認してください。
- 柔らかいブラシや乾いた柔らかい布でサーフェイスを清掃してください。化学薬品、研磨剤や溶剤の使用は避けてください。
- サービスは認可されたAllen & Heathのエージェントにより行われることをお勧めします。お近くの販売代理店の連絡先の詳細は、Allen & Heathのウェブサイトに掲載されています。Allen & Heathは未認可の担当者によるメンテナンス、修理、修正によって生じた損害について責任を負いません。
- コントロール面と外装への損傷が無いようにしてください。ムービングフェーダーの動きの妨げになるので、コントロールサーフェイスの上に重いものを置かないでください。タッチスクリーンの表面を尖ったもの、または乱暴に扱う、振動等で傷つけないようにしてください。

### 製品登録

製品登録：[www.allen-heath.com/register](http://www.allen-heath.com/register)

# 梱包製品

以下の梱包内容を確認してください。

- dLive Surface
- スタートガイド AP9899
- セーフティシート
- IECコード
- ダストカバー

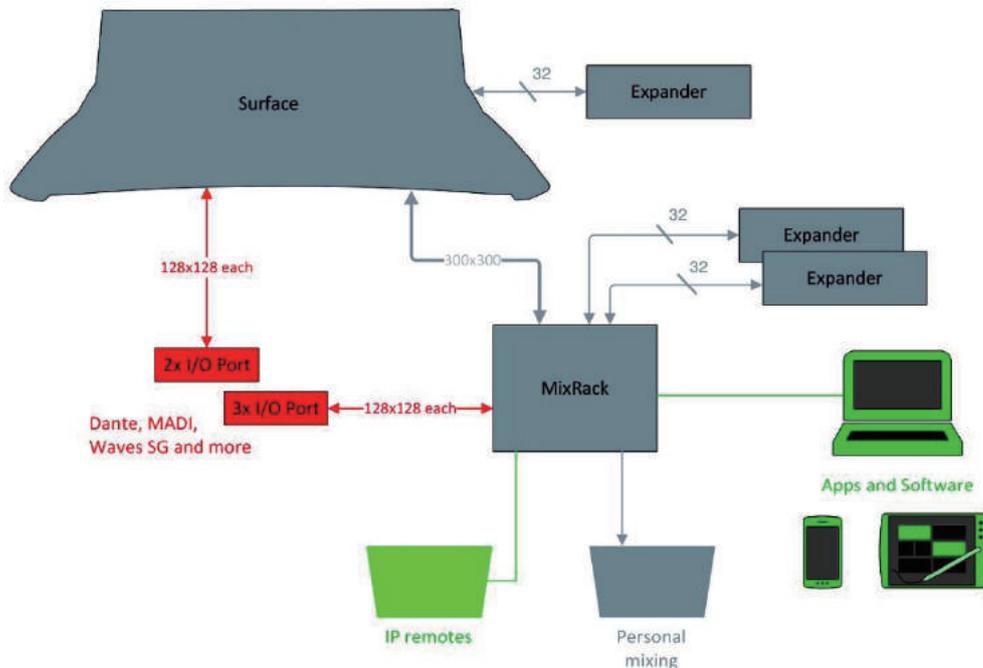
# 目次

重要事項 .....	3
梱包製品 .....	4
目次 .....	4
1. 概要 .....	5
1.1 dLive サーフェイス .....	5
2. リアパネル .....	7
3. フロントパネル .....	10
3.1 Harmony UI – プロセッシング画面 .....	12
3.2 Harmony UI – システム画面 .....	13
3.3 フェーダーストリップ .....	15
3.4 Mixを使用する .....	16
4. 接続と電源の入れ方 .....	17
4.1 MixRack との接続 .....	17
4.2 テンプレートショーのリコール .....	17
4.3 エクспанダー接続 .....	17
4.4 ラップトップまたはワイヤレスルータ接続 .....	18
5. 仕様 .....	19
6. テクニカルスペック .....	20

# 1. 概要

dLive は、すべてのライブサウンドに特化した柔軟なソリューションを提供する分散型デジタルミキシングシステムです。ミックスエンジンをコントロールサーフェイスから切り離し、必要な場所にオーディオと処理を施し、多数のコントロールとオーディオネットワークの可能性を提供します。dLive の詳細については、Allen & Heath の Web サイトをご覧ください。

ミックスラックは、dLive システムの核心です、オーディオ I/O、コントロール、オーディオネットワークポートを備えた XCVI プロセッシングコアを内蔵しています。サーフェイスはミックスラック用のネットワークコントローラであり、内蔵のオーディオ I/O およびオーディオネットワークポートが追加されています。最大 3 台の DX32 モジュラーラックを追加することでシステムを拡張することができ、ME パーソナルミキシングシステムと互換性があります。

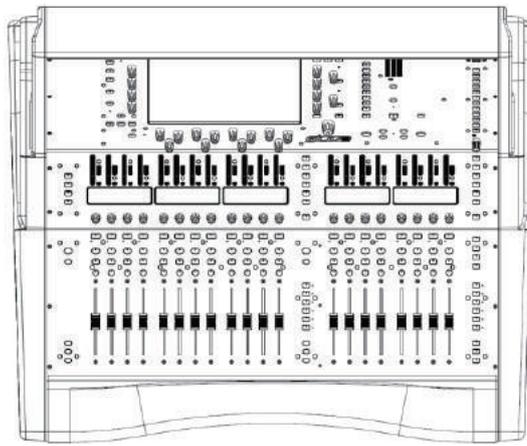


## 1.1 dLiveサーフェイス

dLive のサーフェイスには 3 種類のサイズがあります。すべてが同じ I/O を備え、フェーダーとタッチスクリーンの数だけが異なります。

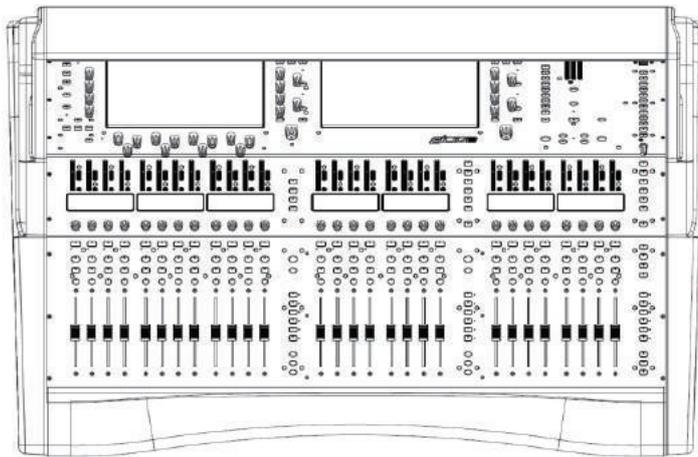
dLive サーフェイスの特徴と概要：

- レイアウトはすべてアサイン可能
- Harmony UI - 総合的な画面と「ラップアラウンド」コントロール
- S7000 と S5000 には 2 つ、S3000 には 1 つの 12 インチのタッチスクリーン
- ジェスチャーコントロール - タッチスクリーン操作はピンチ、スワイプ、ドラッグ & ドロップ
- シーン、メーター、FX などの設定可能な操作エリア
- 各画面あたり 3 ページのアサイン可能なローターリー
- アサイン可能な 26 個のソフトキー
- エンジニアのウェッジおよび IEM フェーダストリップ
- 包括的なマルチポイントメーターリング
- 直射日光下でも明るい画面表示
- USB でのステレオ録音および再生
- リダンダント電源を搭載したホットスワップ可能な電力供給



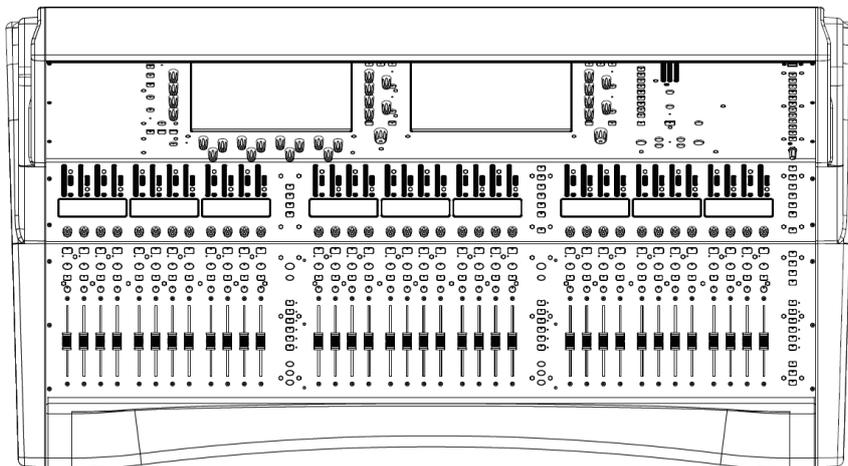
### S3000

20 フェーダー、6 レイヤー=120 ストリップ  
1つのタッチスクリーン



### S5000

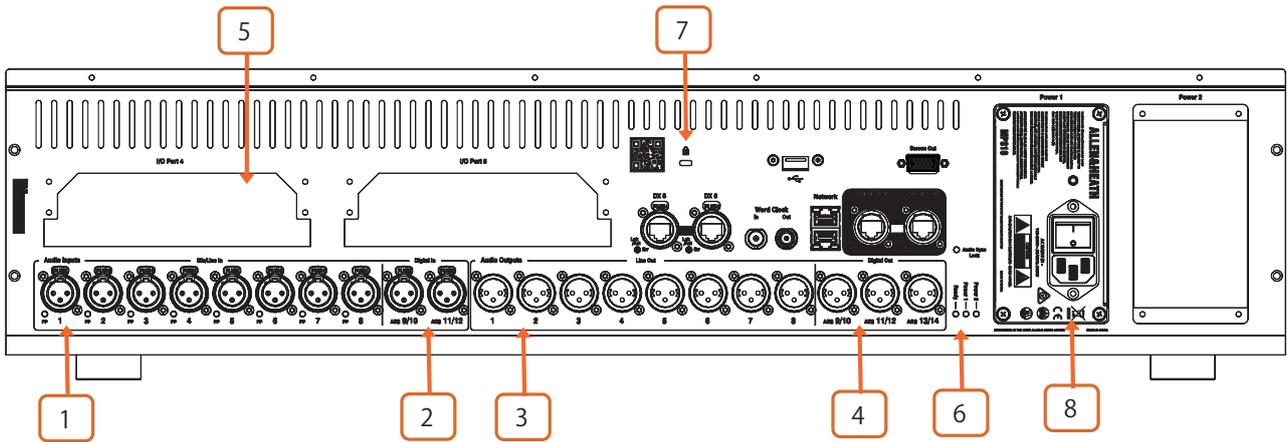
28 フェーダー、6 レイヤー=168 ストリップ  
2つのタッチスクリーン



### S7000

36 フェーダー、6 レイヤー=216 ストリップ  
2つのタッチスクリーン

## 2. リアパネル



- 1 Mic/Line inputs – マイク/ライン入力 – 8つのバランスまたはアンバランス型のマイク/ライン入力用のリコール可能なプリアンプです。ゲイン、Pad、および 48V ファンタム電源はプリアンプ内で制御されます。

内部か外部からのどちらかのファンタム電源がソケットで検知されると PP 表示ランプが点灯します。

I/O または **Processing/Preamp** スクリーンで、任意の入力チャンネルにパッチできます。

- 2 Digital inputs – デジタル入力 – 2つの AES3 入力 (32kHz – 96kHz サンプリングレート)、サンプルレートコンバーターはバイパス可能です。

I/O または **Processing/Preamp** スクリーンで、任意の入力チャンネルにパッチできます。

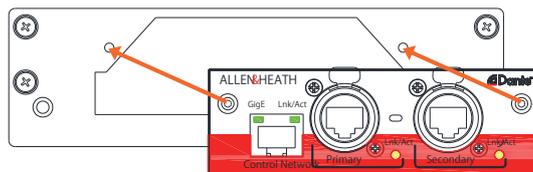
- 3 Line outputs – ライン出力 – 8つのバランス型 XLR ライン出力です。標準レベルは +4dBu。出力は電源投入/切断時のノイズ防止のため、リレーで保護されています。

信号は I/O スクリーンを使用して任意の出力ソケットにパッチできます。

- 4 Digital outputs – デジタル出力 – 3つのステレオ AES3 出力 (48kHz or 96kHz 切替可能)。信号は I/O スクリーンを使用して任意の出力ソケットにパッチできます。

- 5 I/O Ports – I/P ポート – 128 x 128 チャンネルで、アサイン可能な 2つのオーディオインタフェースポート。システム拡張、デジタルミクスプリット、録音、およびオーディオネットワーク用にオプションカードが利用可能です。利用可能なオプションカードのリストに関しては、[www.allen-heath.com](http://www.allen-heath.com) をご覧ください。

- ① iLive/GLD オプションカード (M-Dante、M-Waves、M-ES-V2、M-ACE、M-MADI) は、M-DL-ADAPT「レターボックス」アダプタを併用すると、dLive で使用可能です。これにより、内蔵型サンプルレートコンバーターで 64 x 64 48kHz インタフェースが得られます。

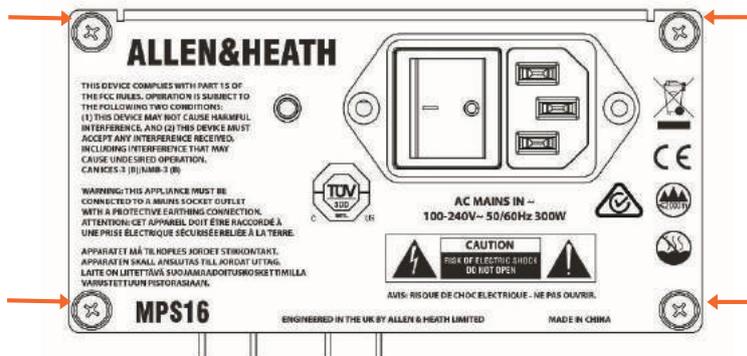


信号は I/O スクリーンを使用して任意の I/O ポートにパッチできます。

- 6 Status indicators – ステータスインジケータ – 2つの電源オン表示インジケータ。Ready 表示ランプは、電源オン後、出力ソケットにオーディオ出力が可能となった時点で点灯します。Audio Sync Locked オーディオシンクロックは有効なクロックを示します。

7 Kensington Lock - ケンジントン盗難防止装置取り付け用のスロット

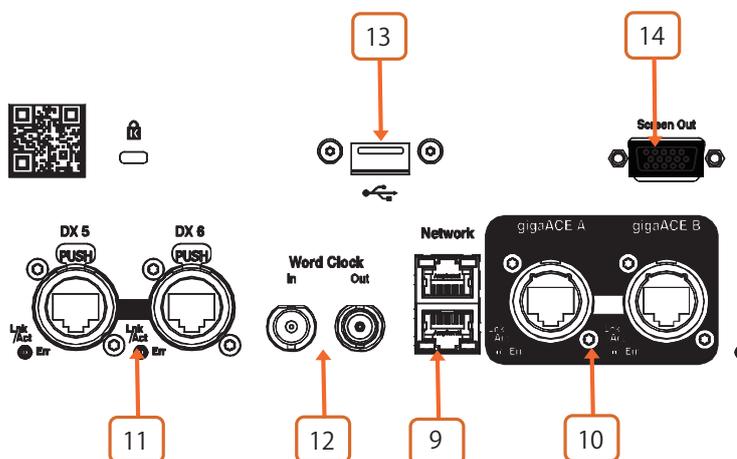
8 Power Supply - 電源-電源用 IEC コネクタとオン/オフスイッチ付でホットスワップ可能な電源。取り外しまたは交換するには 4 本のネジをゆるめ、PSU (電源ユニット) をスロットから引き抜きます。



① dLive MixRack は PSU を 1 台装着して出荷されます。2 台目の PSU を装着してリダントの搭載も可能です (部品番号 MPS-16)。トルクス T8 ドライバを使用して、ブラックパネルを固定している 4 本のネジを取り外し、PSU をスロットに挿入し、再び 4 本のネジで締め付けます。万が一、PSU のどちらかが故障すると、MixRack はオーディオを途切らせることなく、もう片方の PSU に切り替えます。

① パネルに記載の安全についての警告にご注意ください。

メインケーブルを固定するためにプラスチックの P クリップケーブルクランプが用意されています。トルクス T20 ドライバを使用して、ケーブルの周りを締め付けます。



9 Network - ネットワーク-2つの RJ45 ギガビットイーサポート。dLive Editor または iOS アプリで使用する PC またはワイヤレスルーターを接続してください。ネットワーク上のすべてのデバイスは互換性のある IP アドレスを持っていない限りなりません。

10 gigaACE link - ギガ ACE リンク-ギガビットイーサネットによる MixRack から Surface へのリンク (IEEE 802.3 レイヤー 2 準拠)。Cat5e (またはそれ以上) のケーブル単線で 96kHz のオーディオと制御信号を双方向に伝えます。リダントを持たせるためには 2 本のケーブルを使用し、障害発生時システムは、ケーブルをスムーズに切り替え、オーディオ切断を起こしません。

- 11 DX links – DX リンクファーストイーサネットを介して DX エキスパンダを接続するための二重化されたイーサコンポート (IEEE 802.3 レイヤー 2 準拠)。Cat5e (またはそれ以上) のケーブル単線で 96kHz のオーディオ、32 x 32 チャンネルを伝送し制御します。リダンダント用として 2 本のケーブルを使用して下さい。

DX エキスパンダの入出力信号を接続するには I/O 画面を使用します。

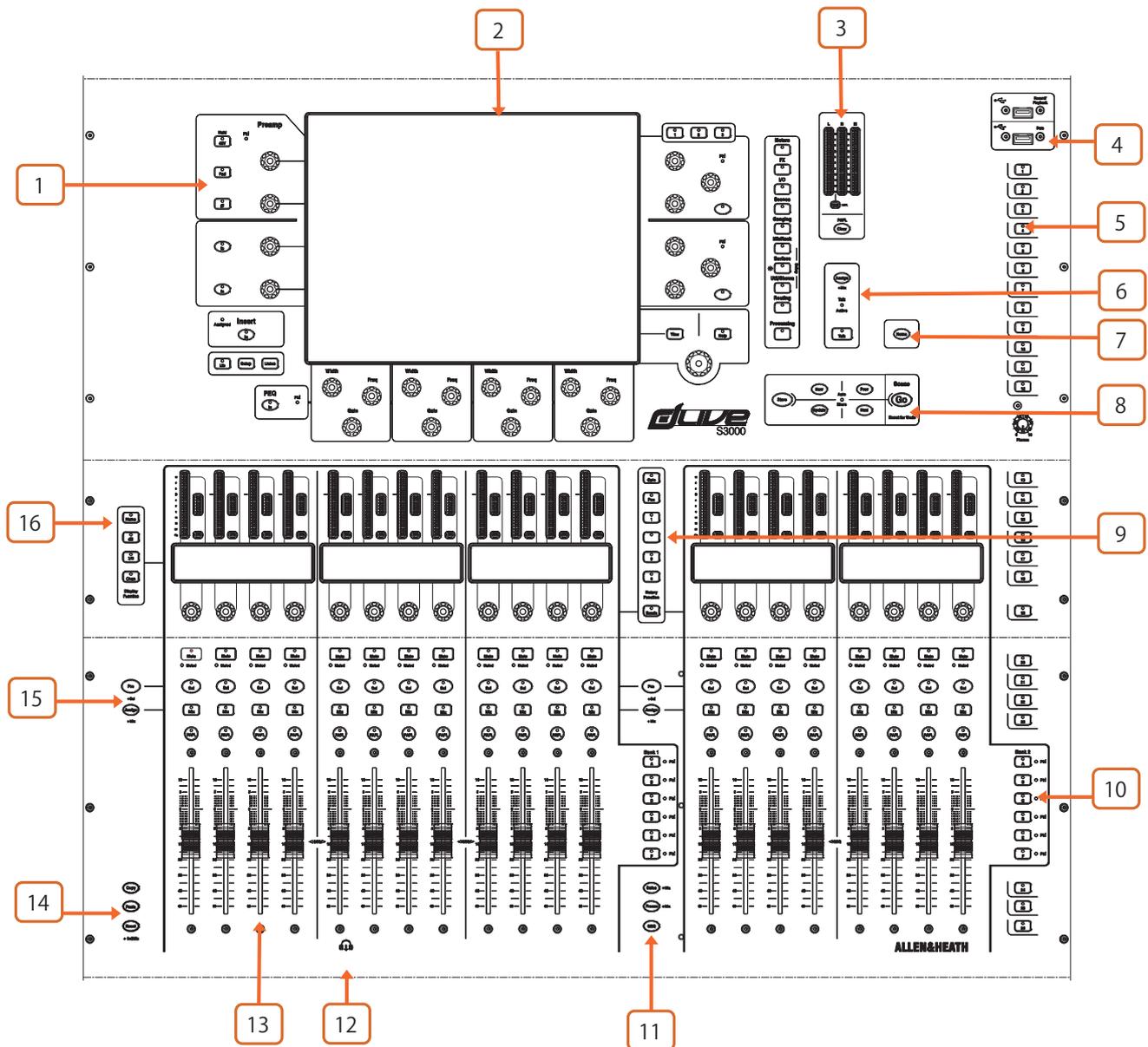
- 12 Word Clock I/O – ワードクロック I/O – 外部オーディオクロックにより同期する、または他のデバイスにクロックを提供するための BNC コネクタです。

- 13 USB – USB ポートはアーカイブ転送とファームウェアアップデート用です。

- 14 Screen Out – 画面出力 – 外部モニター接続用 VGA ポート。タッチスクリーンのどちらかをモニターへ出力することができます。Surface / Screen 画面で設定します。

❗ 外付けタッチスクリーンはサポートされていません。

### 3. フロントパネル



- 1 Channel Processing – チャンネルプロセッシングがアサインされた入力やミックスの設定はストリップの **Sel** キーを押してください。詳細については 3.1 Harmony UI をご覧ください。
- 2 Touchscreen – タッチスクリーンジェスチャーコントロールで日中でも明るい 1つまたは2つのタッチスクリーン。詳細については 3.1 Harmony UI をご覧ください。
- 3 Main / PAFL meters – PAFL アクティブインジケータ付き LCR メーター。有効な PAFL をキャンセルするには、**PAFL Clear** を押します。
- 4 USB ports – 上段のポートはステレオ WAV ファイルの録音と再生専用です。下段のポートは、ショーファイル、ライブラリー、イベントログ、およびファームウェア更新のデータ転送用です。

- 5 **SoftKeys** - ソフトキー - 26 個のユーザーアサイン可能なボタンがあります。 [Surface / Control / SoftKeys](#) 画面で設定します。
- 6 **Talkback** - トークバック - ラッチまたは、モーメンタリ Talk キー押して Talk を有効にします。 Assign キーを押したまま任意のマスター [Mix](#) を押し設定します。
- 7 **Home** - ホーム - サーフェイスをホーム状態に戻します。 デフォルトの有効なレイヤー、スクリーンモード、有効なミックス、ロータリーモードとチャンネル LCD 表示に戻します。
- ① Home は、チャンネル処理、ストリップのレイアウト、イルミネーションまたは、Scenes に保存されている他の設定に影響しません。
- 8 **Scene navigation** - シーンナビゲーション - **Go** を押しシステム画面の右上に示されている次のシーンをリコールします。 この Scene は Scenes メニューと **Scenes widget** シーン操作で緑色に強調されます。 **Prev** と **Next** キーで前後の Scene をリコールすることができます。誤ってリコールし前回の設定の復元するには、Reset を押したまま Go を押します。
- Store** - 保存 - システム画面の左上に表示されているシーンに現在の設定を保存します。 この Scene は、Scene メニューと Scenes widget で黄色に強調されます。
- ① Auto Store オートストアは、別のシーンが呼び出されるたびに、現在の（最後にリコールされた）シーンを自動的に保存します。 LED が点灯して、このオプションが有効であることを示します。
- New** - 新しく何も保存されていないシーンに現在の設定を保存します。 保存可能なシーンメモリーの場所に現在の設定が保存されます。
- Update** - 更新 - 特定のシーン（またはシーンの範囲）内の 1 つまたは複数のパラメーターまたはチャンネルを現在の設定 / 値に更新します。
- 9 **Strip rotary mode** - ストリップロータリーモード - フェーダーストリップロータリーエンコーダーの機能を選択します。 フェーダーストリップのロータリーは、プリアンプのゲインパン、有効なミックスへのセンド、およびアサイン可能な 4 つの機能をコントロールできます。 [Surface / Control / Preferences](#) 画面から設定可能です。 LED の色は、有効なミックスに一致し、ゲインは赤色、パッドは黄色、センドモードのときは有効なミックスの色に従います。
- センド機能はセンドレベルのコントロールをストリップロータリーの有効なミックスに送ります。 フェーダーはチャンネルレベルをメインミックスに制御します。 つまり、「sends on faders」を一時的に停止します。
- 10 **Layers** - レイヤー - 各バンクごと 6 つのレイヤーのフェーダーストリップの操作が可能です。 赤色のピークインジケータは、レイヤーのいずれかのチャンネルが 5dB 以内のクリップ場合に点灯します。 レイヤー全体を通して信号の有無を確認できます。
- バンクは、[Surface / Control / Preferences](#) 画面からリンクすることができます。 レイヤーキーは、リンクされたすべてのバンクに影響します。 たとえば、レイヤーを変更するときに、2 つのバンク間のすべての入力ストリップを「同期」させておくことができます。
- 11 **Safes** - セーフキーを押したまま、ストリップの **Mix** キーを押し、シーンリコールからチャンネルセールを設定します。 選択したパラメータのみをセーフするには、[Scenes / Scene Safes](#) 画面を使用します。
- Freeze in Layers** - レイヤーの固定 - Freeze キーを押したまま、ストリップの **Mix** キーを押し、すべてのレイヤーのチャンネルをロックします。
- GEQ on Faders** - フェーダー上で選択されているミックスの GEQ を表示します。 ボタンを押し周波数レンジをトグルで切り替えます (S3000, S5000)。 ディスプレイに周波数値を表示しメーターは RTA でそれぞれの周波数バンドのピークを表示します。 これはモニターや周波数トラブルを解決するのに有効です。
- ミックスマスターフェーダーは、このモードの時右側に表示されます。
- 12 **Phones** - アーム下に 1/4" と 1/8" ジャックが装備され、S5000 と S7000 には 2 つのヘッドホン出力を装備しています。

- 13 **Fader Strips** - フェーダーストリップ-インプットチャンネル、FX リターン、ミックスマスター、DCA、エンジニアのウェッジ /EM、MIDI を制御します。フェーダーストリップの詳細は下記をご覧ください。

ストリップのレイアウトは、ユーザーアサインが可能で、シーンに保存できます。Surface / Control / Strip Assign 画面でストリップのレイアウトを編集します。

- 14 **Copy** - Copy キーを押したまま：  
 ・ チャンネル設定をコピーしたいチャンネルの Sel キーを押します。  
 ・ ミックスアサインとセンドレベルをコピーしたいチャンネルの Mix キーを押します。  
 ・ タッチスクリーン上の各ブロックがハイライトされた部分は各設定をコピーします。

Paste - ペーストキーを押したまま、Sel キー、Mix キーまたは、タッチスクリーンのハイライトされた部分を押してコピーされた設定をペーストします。

Reset - リセットキーを押したまま Sel キー、Mix キーまたは、タッチスクリーンのハイライトされた部分を押して工場出荷時の設定値にリセットします。

リセットキーを押したまま、フェーダーを触ると素早く 0dB または off に設定できます。

- 15 **Assign** - アサインキーを押したまま ストリップの Mix キーを押すとアサインされている Mix の on/off を切り替える事ができます。

Pre/Post - Pre/Post キーを押したままストリップの Sel キーを押して、有効な Mix へのセンドを pre / post に切り替える事ができます。

すべてのチャンネルの on/off または、pre/post を切り替えるにはマスターの Mix または、Sel を押します。

選択されたチャンネルまたはミックスのアサインと Pre/Post 設定は、Routing 画面でも設定可能です。

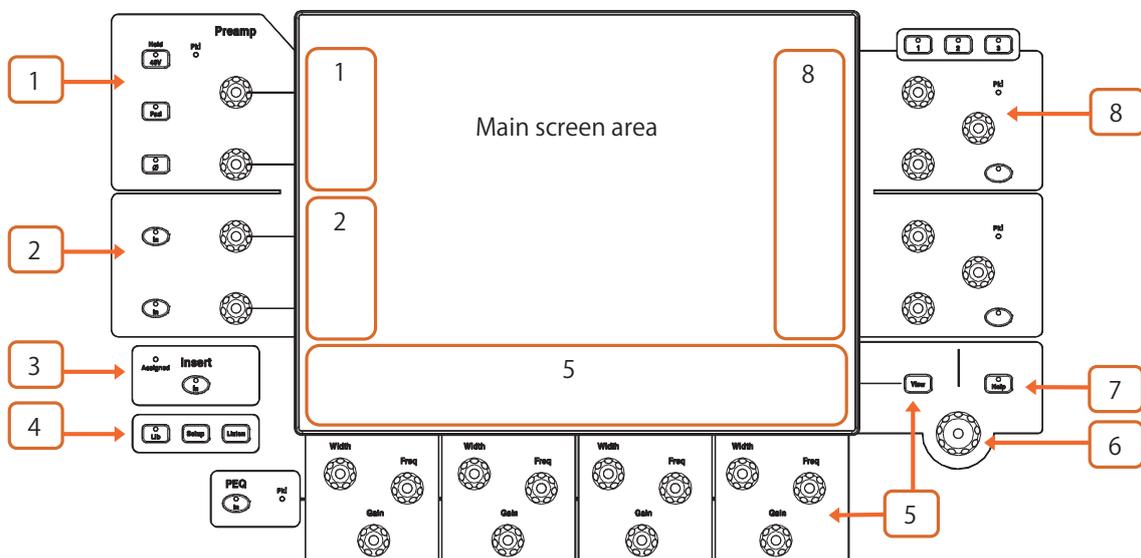
- 16 **LCD Display mode** - LCD 画面に表示される情報を選択します。詳細については下記のフェーダーストリップを参照してください。

### 3.1 Harmony UI - プロセッシング画面

S5000 および S7000 の左側の画面は、チャンネルプロセッシング専用です。S3000 は、この画面をシステム画面で行います。

dLive は、直感的かつ迅速な操作のために色分けされた一連の「ラップアラウンド」コントローとタッチスクリーンを統合します。画面の専用部分には、対応するコントロールの数値と状態が表示されます。いくつかは設定可能またはユーザー設定が可能です（操作エリア）。これらの部分のいずれかをタップすると、メイン画面に関連するタブが開きます。

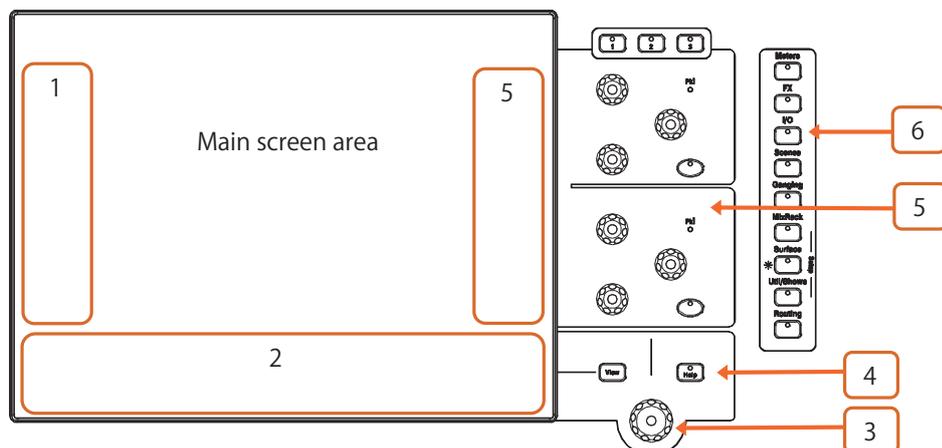
チャンネルが選択されていない場合、ホーム画面はユーザーログインを含む一連の機能にアクセスします。



- 1 Preamp – アナログゲイン、デジタルトリム、48V ファンタム電源、パッドおよびポラリティ用のピークインジケータおよび専用プリアンプコントロール
  - 2 Filters – HPF・LPF フィルターおよび内蔵スイッチ
  - 3 Insert – インサート内蔵スイッチとアサインインジケータ。チャンネルインサートがアサインされている時にインジケータが点灯します。
  - 4 Lib – ライブラリーフォーカスしているチャンネルまたは処理ブロックのプリセットライブラリーにアクセスするときに押します。ポップアップメニューでは、ライブラリーの呼び出し、保存、上書き、または削除ができます。Lib をもう一度押して終了します。
- Setup – 画面のハイライト部分を押しそのままタップし設定します。例えば、操作エリアをタッチして、機能、ビュー、またはコントロールを設定します。メイン画面をタッチすると、表示されているオプションにさらにアクセスできます。
- Listen – 選択されたチャンネルのポイントを聴くには、Listen を押しそのまま画面のハイライト部分をタップします。信号は一時的に PAFL バスとメーターを書替えます。
- 5 PEQ – スイッチには、パラメトリック EQ の 4 バンドのピークインジケータと帯域、周波数、ゲインコントロールがあります。  
  
画面の専用エリアには、PEQ パラメータおよび曲線が 4 バンドまたはフルレンジごとに表示されます。セットアップを押しながらこのエリアをタッチし設定します。表示されたビューを切り替えるには、View を押します。
  - 6 Touch & Turn – メイン画面でパラメータまたは設定をタッチし、ロータリーコントロールでその数値を調整します。
  - 7 Help – 有効な画面の簡単な説明はヘルプキーを押してください。
  - 8 Soft Rotaries – 1 画面につき 3 つのレイヤーに渡り、アサイン可能な 3 個のローターブロックが 2 つあります。各ブロックには、独自の内蔵スイッチとピークインジケータがあります。画面の専用エリアには、アサインされた利用可能なコントロールとサムネイルインジケータのパラメータが表示されます。セットアップを押しながらこのエリアをタッチして設定します。ロータリーの上部にあるキーを押すか、操作エリア内をスワイプして 3 つのレイヤーを切り替えることができます。
- ① ソフト・ロータリーはチャンネル選択、有効なミックス、または特定のチャンネルロックを設定できます。

### 3.2 Harmony UI – システム画面

システム画面（S5000 と S7000 の右側の画面）には、ステータス、システム設定、メモリ管理メニューなどが表示されます。



- 1 Left widget area - 左操作エリアスクロール可能なシーンリストなど、さまざまな機能用に設定できます。セットアップを押しながらこの領域をタッチして設定します。

S3000 では、このエリアはチャンネル処理専用です。

- 2 Bottom widget area - ボトム操作エリアスクロール可能なメーターブリッジなど、さまざまな機能に合わせて構成できます。Setup を押しながらこのエリアをタッチして設定します。設定画面を切り替えるには、View を押します。

- 3 Rotary control - ロータリーコントロールメイン画面で黄色でハイライトされたパラメータの数値を調整します。

- 4 Help - 有効な画面の簡単な説明はヘルプキーを押してください。

- 5 Soft Rotaries - 1画面につき3つのレイヤーに渡り、アサイン可能な3つのローターブロックが2つあります。各ブロックには、独自の内蔵スイッチとピークインジケーターがあります。

画面の専用エリアには、アサインされた利用可能なコントロールとサムネイルインジケータのパラメータが表示されます。セットアップを押しながらこのエリアをタッチして設定します。ロータリーの上部にあるキーを押すか、操作エリア内をスワイプして3つのレイヤーを切り替えることができます。

- ❶ ソフト・ロータリーはチャンネル選択、有効なミックス、または特定のチャンネルロックを設定できます。

- 6 Screen modes - メイン画面エリアのメニューを選択するときに押します。

Meters - 入力メーター、FXメーター、ミックスメーター、RTA、スペクトログラム、および4つのカスタマイズ可能なメータービューへのアクセスができます。

FX - 16台のRackFXユニットを表示、ロード、セットアップします。バックパネルビューでは、各ユニットをインサートまたはセンド/リターンにパッチすることができます。

I/O - クロスポイントをタップしてシステムの入出力をパッチします。

Scenes - シーンマネージャー、キューリスト、シーンセーフにアクセスできます。

Ganging - 最大16のギャンググループを作成して、選択したパラメータを複数のチャンネルにリンクします。

Surface Setup - ミックスバス構成、ステレオ入力設定、ネットワーク設定、ユーザープロファイル、トークバックのアサイン、シグナルジェネレーター、オーディオ同期、およびI/Oポートオプションへのアクセス。

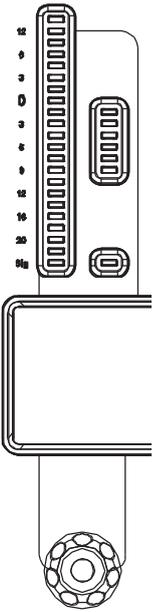
MixRack Setup - フェーダーストリップのレイアウト、SoftKeys、カスタムロータリー機能のアサイン。サーフェイスの照明調節とUSBでのオーディオ再生/録音の制御。PAFLオプションとネットワーク設定へのアクセス。

Util/Shows - ショーマネージャー、ライブラリマネージャー、システム診断、画面とフェーダーの較正、ファームウェアのアップデート、MIDI MMCへのアクセス。

Routing - ルーティング-選択したチャンネルのルーティングとアサインへのアクセス。

Processing (S3000) - プロセッシング (S3000) - 選択したチャンネルのチャンネル処理画面。画面モードが選択されていない場合、**システムステータス**ダッシュボードが表示されます。この画面でPower Downをタッチすると、電源を切る前にSurfaceの電源を安全に切ることができます。

### 3.3 フェーダーストリップ

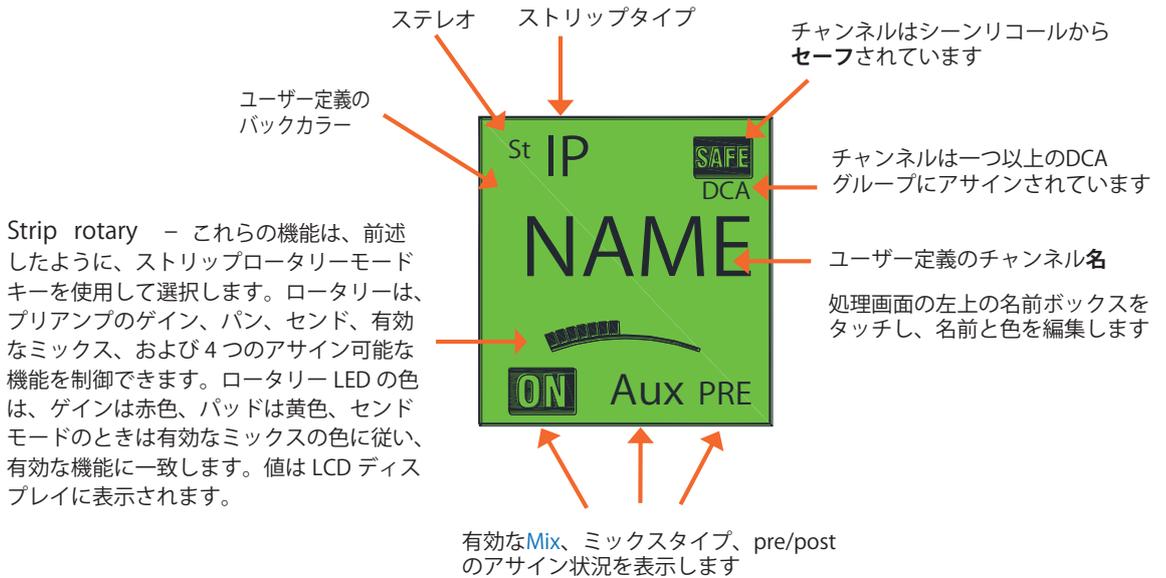


**Meter** - 22段階で表示される信号メーターと6段階で表示されるゲインリダクションメーターがあります。メーターは有効なチャンネルのオーディオ信号を表示します。

信号が5dBのクリップ範囲内にある場合ピークインジケータが赤色に点灯します。これは多点検出であり、信号経路の複数の時点でピークを検出します。ピークインジケータだけが点灯している場合は、処理画面で有効な信号を確認してください。

① 入力チャンネルとミックスマスターのグローバルメーターソースポイントを設定するには、セットアップを押しながら、メイン画面の **Meters / Inputs or Meters / Mix** 画面をタッチします。

**LCD Display** - チャンネル名、色を含めたチャンネル情報を表示します。



**Strip rotary** - これらの機能は、前述したように、ストリップロータリーモードキーを使用して選択します。ロータリーは、プリアンプのゲイン、パン、センド、有効なミックス、および4つのアサイン可能な機能を制御できます。ロータリーLEDの色は、ゲインは赤色、パッドは黄色、センドモードのときは有効なミックスの色に従い、有効な機能に一致します。値はLCDディスプレイに表示されます。



**Mute** - チャンネル信号をオフにします。メインミックス、プリフェード、ポストフェードセンドに影響します。チャンネルがDCAまたはミュートグループでミュートされているときは、ミュートLEDが点灯します。

Muted



**Sel** - 処理およびルーティング画面で使用するチャンネルを選択します。チャンネルストリップコントロールが有効になり、チャンネルの処理が制御されます。

① 現在選択されているチャンネルが処理画面の左上隅に表示されます。



**Mix** - フェーダーストリップ上（ロータリーがセンドモード時のロータリーストリップ）のチャンネルまたはマスターのセンドレベルとアサインを決めます。使用例については、次の段落を参照してください。

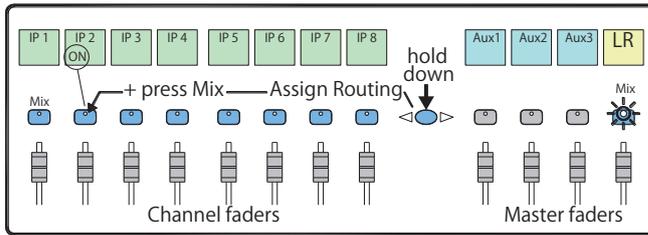
① 現在有効なミックスが処理画面の右上隅に表示されます。有効な **Mix** キーを押してメインミックスに戻ります。



**PAFL** - ヘッドフォンとモニターシステムにチャンネル信号PFL（プリフェードリスン）またはAFL（アフターフェードリスン）を送信します。PAFLシステムの設定は、**Surface / Audio / PAFL** 画面を使用して設定します。

## 3.4 Mixを使用する

### Normal mix mode (FOH)

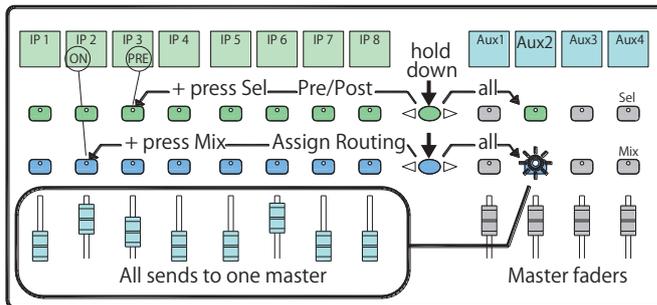


メインミックスマスターストリップ **Mix** キーを押します。

これは通常のみキシングモードです。入力ストリップはチャンネルフェーダーを示します。マスターストリップはマスターミックスフェーダーを表示します。

**Assing** キーを押しながらチャンネル **Mix** キーを押してメインミックスからアサインまたはアサイン解除します。現在の ON 状態がストリップ LCD の下に表示されます。

### MasterMixview



ミックスマスターストリップ **Mix** キーを押します。

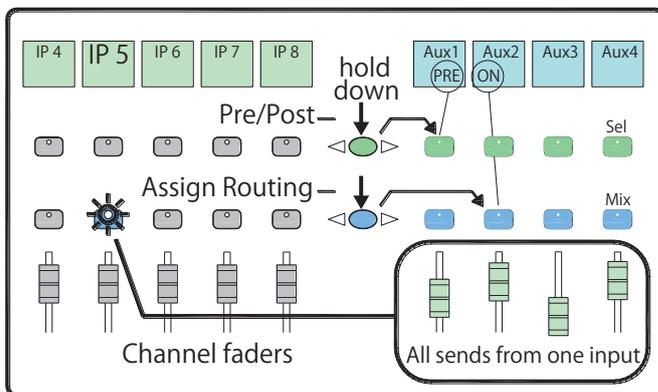
これを使用して Aux と FX のセンドを設定します。入力ストリップは、すべてのセンドレベルを有効なミックスに表示します。マスターストリップはマスターミックスフェーダーを表示します。

**Assign** キーを押しながらチャンネル **Mix** キーを押して、有効なミックスからアサインまたはアサイン解除します。

**Pre / Post** キーを押しながらチャンネルの **Sel** キーを押すと、各ソースのプリまたはポストフェーダーが切り替わります。現在の PRE ステータスは、チャンネルストリップ LCD の下部に表示されます。

マスターストリップの **Mix** または **Sel** キーを押すと、**すべてのアサインをオンまたはオフにするか、またはすべてのソースをプリまたはポストフェーダーに設定できます。**

### ChanneMixview



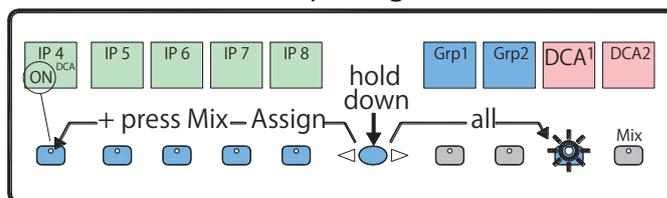
入力チャンネルストリップ **Mix** キーを押します。

これを使用して Aux と FX のセンドを設定します。入力ストリップはチャンネルフェーダーのままです。マスターストリップは、インプットチャンネルからのすべてのセンドを表示します。

**Assign** キーを押しながらマスター **Mix** キーを押して、各ミックスからのチャンネルをアサインまたはアサイン解除します。

**Pre / Post** キーを押しながらマスターの **Sel** キーを押して、チャンネルのプリまたはポストフェーダーを各ミックスに切り替えます。現在の PRE 状態がマスターストリップ LCD に表示されます。

### DCA and Audio Group assign



グループマスターストリップの **Mix** キーを押します。

これを使用して、オーディオと DCA グループにチャンネルをアサインします。インプットとマスターフェーダーは影響を受けません。

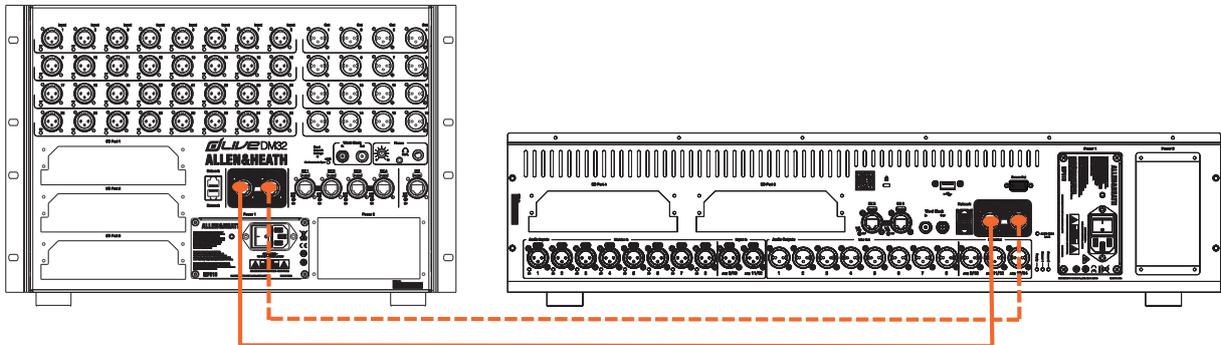
**Assing** キーを押しながらチャンネル **Mix** キーを押して、グループのチャンネルアサインまたはアサイン解除をします。

## 4. 接続と電源の入れ方

### 4.1 MixRackとの接続

dLive Surface と MixRack gigaACE ポート間の接続は、最大 100m までの CAT5e（またはそれ以上の仕様）ケーブルで接続してください。リダンダント用に 2 本のケーブルを使用してください。

- ① ケーブルの要件、推奨事項、および注文可能な CAT5 ケーブルのリストについては、[www.allen-heath.com](http://www.allen-heath.com) を参照してください。



最初に MixRack をオンにし、Surface をオンにします。リンクが確立されると、gigaACE Lnk / Err インジケータが一定の速度で点滅します。通信エラーが検出された場合に赤色のインジケータが点灯します。ケーブルが正しく差し込まれていて、故障していないことを確認してください。

サーフェスのコントロールおよびタッチスクリーンが反応するのに約 30 秒かかります。

### 4.2 テンプレートショーのリコール

dLive は、カスタマイズ可能なコントロールレイアウト、およびソケットパッチを備えたオーディオ構造です。素早くスタートできるように、オーソドックスなコンソールフォーマットのテンプレートショーを提供します。そして使い慣れたアナログコンソールの論理のレイアウト構造になっています。

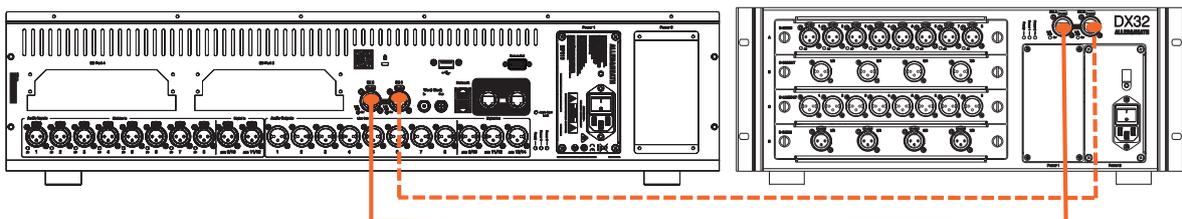
テンプレートショーをロードするには、**Utility / Show Manager** 画面に移動し、使用可能な Template Shows の 1 つを選択し、**Recall** を押してください。

- ① ショーをリコールすると、バス設定、コントロールのレイアウト、現在のパラメーター、すべてのシーンとライブラリーのプリセットを含むすべてのシステム設定が上書きされます。現在の設定を保存する場合は、まずそれらをユーザーショーとして**保存**します。
- ① 詳細については、[www.allen-heath.com](http://www.allen-heath.com) からダウンロードできる dLive Firmware Reference Guide を参照してください。

### 4.3 エクスパンダー接続

DX エクスパンダーとサーフェイス DX ポート間の接続は、最大 100m までの CAT5e（またはそれ以上の仕様）ケーブルで接続してください。リダンダント用に 2 本のケーブルを使用してください。

- ① ケーブルの要件、推奨事項、および注文可能な CAT5 ケーブルのリストについては、[www.allen-heath.com](http://www.allen-heath.com) を参照してください。



DX エクスパンダーをオンにします。リンクが確立されると、DX ポートの Lnk / Err インジケータが一定の速度で点滅します。通信エラーが検出された場合に赤色のインジケータが点灯します。ケーブルが正しく差し込まれていて、故障していないことを確認してください。

## 4.4 ラップトップまたはワイヤレスルーター接続

ラップトップ、ルータ、またはアクセスポイントをいずれかのネットワークポートに接続し、dLive Editor または iOS アプリケーションで使用できます。詳細については、ソフトウェアまたはアプリケーションに付属のリリースノートおよびヘルプファイルをお読みください。

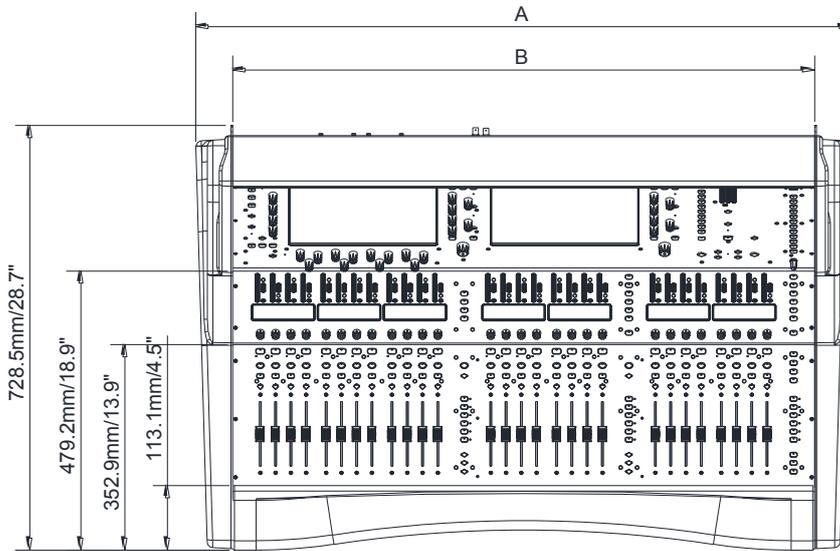
- ① dLive は TCP / IP で通信します。MixRack と Surface を含むネットワーク上のすべてのデバイスには、互換性のある IP アドレスが必要です。出荷時のデフォルトは次のとおりです。

MixRack	192.168.1.70
Surface	192.168.1.71
Subnet Mask	255.255.255.0
Gateway	192.168.1.254

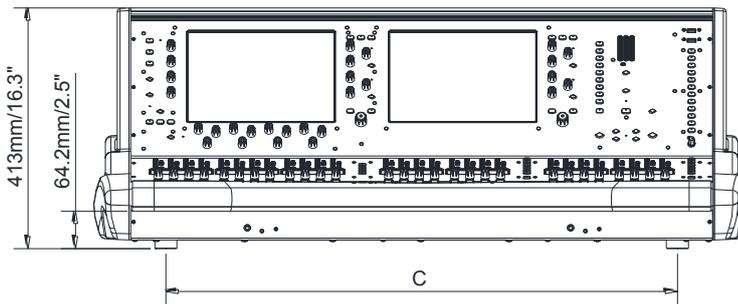
有線でのラップトップ接続の場合は、ラップトップを互換性のあるスタティック IP アドレス (**192.168.1.10** など) に設定します。

ワイヤレス接続の場合は、ルータ / アクセスポイントを互換性のある IP アドレス (192.168.1.254 など) に設定し、DHCP 範囲を (**192.168.1.100~192.168.1.200** など) に設定します。ワイヤレスラップトップまたはモバイルデバイスを DHCP / 「自動的に IP アドレスを取得する」に設定します。

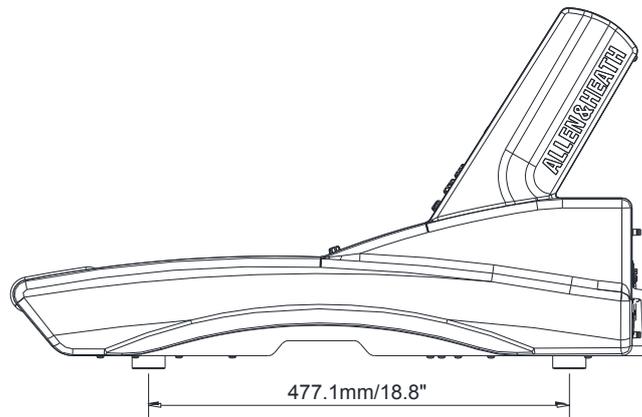
# 5. 仕様



- A**  
 S3000 - 870mm/34.2"  
 S5000 - 1115.4mm/43.9"  
 S7000 - 1325.4mm/52.2"
- B**  
 S3000 - 744.5mm/29.3"  
 S5000 - 990mm/39"  
 S7000 - 1200mm/47.3"



- C**  
 S3000 - 624.5mm/24.6"  
 S5000 - 870mm/34.3"  
 S7000 - 1080mm/42.5"



## 6. テクニカルスペック

Inputs		System	
Mic/Line XLR Inputs	Balanced XLR, +48Vphantom power	Measured balanced XLR in to XLR out, 20-20kHz, minimum Gain, Pad out	
Mic/Line Preamp	リコール可能	Dynamic Range	110dB
Input Sensitivity	-60 to +15dBu	System Signal to Noise	-92dB
Analogue Gain	+5 to +60dB, 1dB steps	周波数特性	20Hz - 30kHz +0/-0.8dB
Pad	-20dBActive PAD	THD+N (analogue in to out)	0.0015% @ +16dBu output, 1kHz 0dB gain
Maximum Input Level	+30dBu (PAD in)	Headroom	+18dB
Input Impedance	>4kΩ (Pad out), >10kΩ (Pad in)	Internal operating Level	0dBu
Mic EIN	-127dB with 150Ωsource	dBFS Alignment	+18dBu = 0dBFS (+22dBu at XLR output)
Phantom Power indication	Per socket, internal or external phantom power sensing, triggered at 24V	Meter Calibration	0dB meter = -18dBFS (+4dBu at XLR out)
Digital Inputs	AES3 2 Ch XLR, 2.5Vpp balanced terminated 110Ω SRC on each pair, range 32k - 192kHz, with bypass option	Meter Peak indication	-3dBFS (+19dBu at XLR out)
Outputs		Sampling Rate	96kHz +/- 20 PPM
		ADC	24-bit Delta - Sigma
		DAC	24-bit Delta - Sigma
Analogue XLR Outputs	バランス, リレー保護	レイテンシー	<0.6 ms (MixRack XLR in to XLR out, Input to Mix)
Output Impedance	<75Ω		+ 5 samples, Surface to Mixrack (GigaACE hop)
Nominal Output	+4dBu = 0dB meter reading		+ 8 samples, DX32 to Mixrack (DX hop)
Maximum Output Level	+22dBu		
Residual Output Noise	-92dBu (muted, 20 - 20kHz) -90dBu (muted, 20 - 40kHz)	Operating Temperature Range	0 deg C to 35 deg C (32 deg F to 95 deg F)
Digital Outputs	AES3 2Ch XLR, 2.5Vpp balanced terminated 110Ω サンプルレート 96kHz, 48kHz, 44.1kHz 可変可能	電圧 (MPS16)	100 -240V AC, 47-63Hz, 300W max
寸法・重量			
	Width x Depth x Height x Weight	Boxed	Width x Depth x Height x Weight
S3000	870 x 728 x 413 mm (34.3"x 28.7"x 16.3") x 28kg (62lbs)	S3000	1045 x 920 x 560 mm (41.1"x 36.2"x 22") x 41kg (90.4lbs)
S5000	1115 x 728 x 413 mm (43.9"x 28.7"x 16.3") x 35kg (77lbs)	S5000	1290 x 920 x 560 mm (50.8"x 36.2"x 22") x 50kg (110.2lbs)
S7000	1325 x 728 x 413 mm (52.2"x 28.7"x 16.3") x 41kg (90lbs)	S7000	1485 x 920 x 560 mm (58.5"x 36.2"x 22") x 56kg (123.5lbs)

